2018年度 決算説明資料

2019年5月30日



- 2018年度 決算概況
- 1618 三ヵ年計画の振り返り
- 1921 三ヵ年計画の概要
- 2019年度 通期業績予想

2018年度 決算のポイント

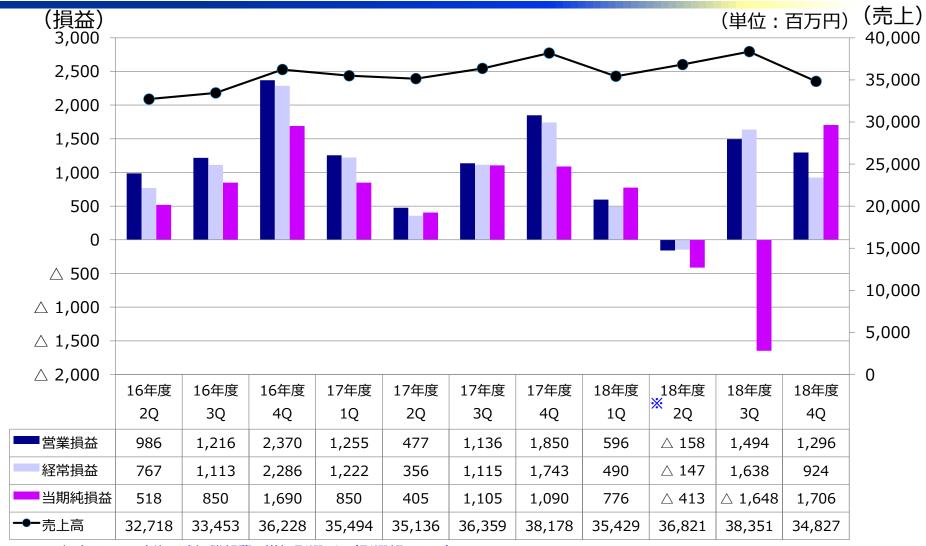
(単位:百万円)

	2017	丰度		2018年度	公表値比増減		
	実績(利	益率)	公表値	公表値 実績 (利益率)			
売上高	145,167	_	149,300	145,428	_	△3,871	△2.6%
営業利益	4,718	(3.3%)	3,100	3,228	(2.2%)	128	4.1%
経常利益	4,436	(3.1%)	3,150	2,905	(1.9%)	△245	△7.8%
当期純利益	3,450	(2.4%)	200	421	(0.2%)	221	90.5%
EPS (円)	133.40		7.72	16.26			

《全体感》

- ▶ 売上:アジア以外は受注量が減少となるが、地金市況の上昇等によりほぼ前年並みの売上高水準計画対比では、下期の自動車市場の弱含みの影響を受けて公表値を下回る
- ▶ 営業利益・経常利益:上期の燃料費上昇、米国の収益改善の遅れ、2Qでの一過性の減価償却費の増加等により前期比減益となったが、ほぼ計画どおりの利益水準を確保
- 当期純利益:米国での減損損失発生等を受け減益
- EPS: 当期純利益の減少により、EPSは16.26円/株

連結決算概要(四半期推移)





ダイカスト事業

(単位:百万円)

		2017	2017年度		2018年度	公表値比増減		
		実績 (利益率)	公表値	直実績(利益率)		公衣胆心有减	
n+	売上高	66,818	-	70,400	67,998	-	△2,401	△3.4%
日本	セグメント損益	1,458	(2.2%)	480	871	(1.2%)	391	81.4%
北米	売上高	39,937	-	40,000	39,801	-	△199	△0.5%
46本	セグメント損益	291	(0.7%)	310	123	(0.3%)	△186	△60.3%
アジア	売上高	30,442	_	31,600	29,971	-	△1,628	△5.2%
	セグメント損益	2,378	(7.8 %)	2,050	1,841	(6.1%)	△208	△10.2%

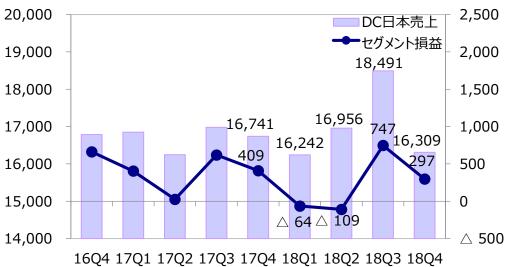
✓ ダイカストセグメントの海外売上比率 2017年度:51.3% ⇒ 2018年度:50.6%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明



ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高/セグメント損益の推移(単位:百万円)



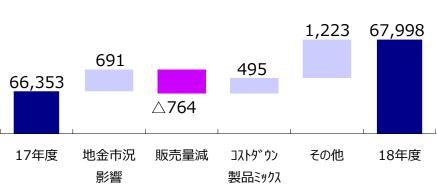
売上:11.7億円増(前期比1.8%増)

- ▶ 販売量は、3 Qまでは前期比ほぼ横ばいで推移したが、一部取引先の生産調整の影響で減少
- ▶ 地金市況の上昇、金型売上等もあり増加

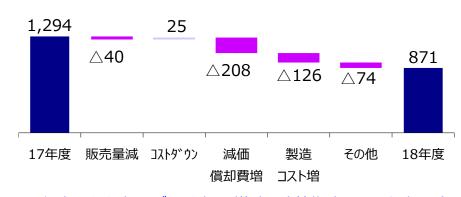
セグメント損益:5.8億円減(前期比40.3%減)

- > 燃料費の上昇や減価償却費の増加等を受け減益
- > 一部製品の生産調整による受注減も影響

※売上高増減要因(単位:百万円)



※セグメント損益増減要因(単位:百万円)

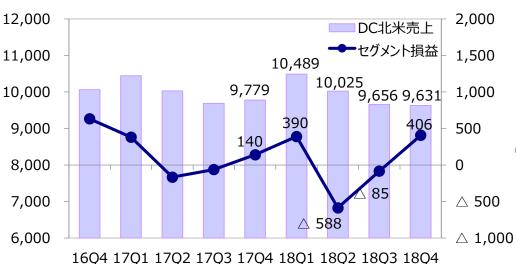


※17年度の売上高・セグメント損益増減は決算期変更の影響額を除く



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移(単位:百万円)



売上:1.3億円減(前期比0.3%減)

- ▶ 販売量は、米国では前年並み。メキシコは新規部品の量産本格化あるが、北米市場の影響受け減少
- 北米全体で販売量減となるが、地金市況の上昇もあり売上高は前年同期とほぼ横這い

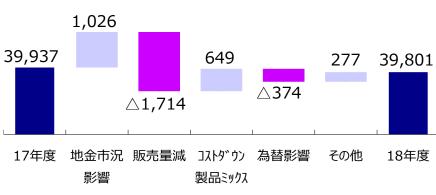
セグメント損益:1.6億円減(前期比57.5%減)

▶ メキシコでの販売減による影響あるが、一部製品ミックスでカバー

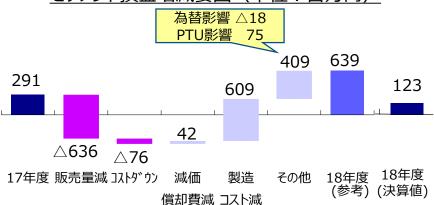
決算期:アメリカ3月期、メキシコ12月期

レート(17通期⇒18通期)アメリカ 110.83⇒110.72 メキシコ 112.39⇒110.58

売上高増減要因(単位:百万円)



セグメント損益増減要因(単位:百万円)

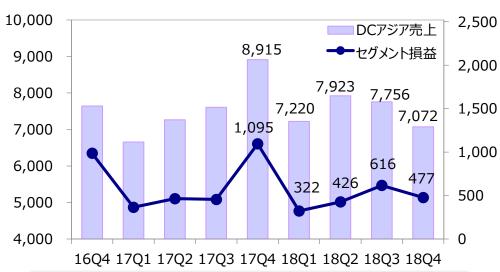


※参考は一時的な減価償却費の増加分を除いたセグメント損益



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移(単位:百万円)



売上:4.7億円減(前期比1.5%減)

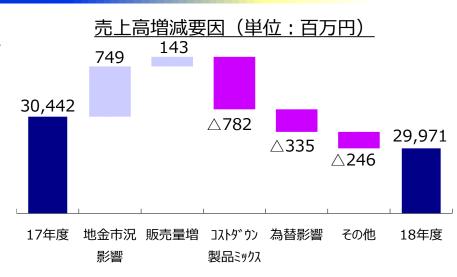
- 中国市場の減速により販売量が下期に減少
- ▶ インドは新規部品の量産本格化等により販売増加したが、為替影響で円ベースでは減収
- コストダウン及び製品ミックスの影響を受け減収

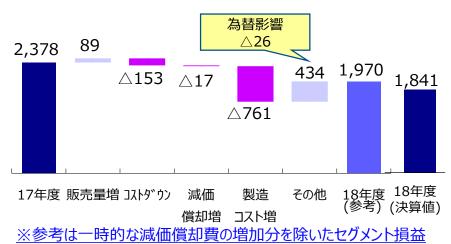
セグメント損益:5.3億円減(前期比22.6%減)

▶ コストダウン影響や製造コスト増で減益

決算期:中国12月期、インド3月期

レート(17通期→18通期) 人民元 16.64→16.69 インドルピー 1.72→1.59







アルミニウム事業および完成品事業

(単位:百万円)

		2017	2017年度 実績(利益率)		2018年度	公表値比増減		
		実績(利			実績(利益率)			
アルミニウム	売上高	4,597	-	4,600	4,679	_	79	1.7%
事業	セグメント損益	213	(4.6%)	140	112	(2.3%)	△28	△20.0%
N	売上高	3,371	_	2,700	2,976	-	276	10.2%
完成品事業	セグメント損益	392	(11.6%)	120	314	(10.5%)	194	161.7%

アルミニウム事業

▶ 売上:販売量減もアルミ地金市況変動の影響を受け増収となり、ほぼ公表値並みの売上

▶ セグメント損益:地金市況上昇による原材料価格の影響等により減益

完成品事業

▶ 売上:クリーンルーム物件等の受注が前期を下回るなか、公表値以上の売上確保

▶ セグメント損益:計画を上回る受注確保により減益幅縮小

連結貸借対照表



> 2018年3月末からの増減

資産: 為替影響 24億円⇒実質増減: 約71億円の減少

流動資産:約4億円減少

(現預金増加も、売上債権の減少等により微減)

固定資產:約90億円減少

(有形固定資産:北米の減損損失等により減少

投資有価証券:一部売却により減少)

> 2018年3月末からの増減

負債:借入金8億円減少、仕入債務26億円減少等に

より54億円減少

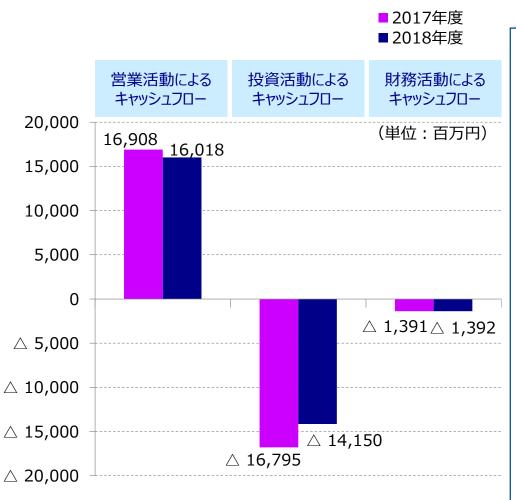
純資産:減損損失計上、投資有価証券の売却等により

約41億円減少

自己資本比率: 47.7%となり0.3ポイント改善



連結キャッシュ・フロー



18年度キャッシュフロー増減要因

▶ 営業CF

税金等調整前純利益		<u>17億</u>
減価償却費		160億
減損損失	(+)	32億
投資有価証券売却益	(-)	21億
売上債権の減少	(+)	15億
仕入債務の減少	(-)	23億

▶ 投資CF

有形固定資産取得155億 (前年166億) 投資有価証券の売却収入29億

▶ 財務CF

<u>長短借入金は減少</u> (18/3末 315億 → 19/3末 307億)

- 2018年度 決算概況
- 1618 三ヵ年計画の振り返り
- 1921 三ヵ年計画の概要
- 2019年度 通期業績予想

1618中期経営計画の基本方針

アーレスティ10年ビジョン

信頼を究めよう 2025



- お客様からの信頼No1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億円+a

1618中期経営計画

①大型高難易度製品の顧客 評価No1実現

②ものづくりを究める

③生きいきと活動する 会社を築く

④収益力を高める

⑤リスク管理を徹底する

「お客様からの信頼No.1」に向けた活動

- □ ダイカスト工場の品質クレーム総件数を2015年度比56%減少
- □ その結果主要なお客様より品質関連の表彰を受賞し、信頼が向上

3年間で品質クレーム件数の削減に効果(全工場で56%減少)。特にアメリカ工場のクレーム件数は2015年度比70%減少し、生産の安定化・生産性向上などにも成果。

クレーム件数



2018年度は、スズキ、マルチスズキ、瀋陽三菱、ジヤトコ、豊田自動織機など、当社の主要顧客より品質関連の表彰を受賞いたしました。



営業活動による受注増加(グローバルで車の軽量化に役立つ活動)

- □ エンジン・トランスミッション部品に加え電動化部品の受注を獲得
- □ 2021年度は2018年度比1割以上の売上増加を見込む



受注増加に対応した工場の増築

合肥アーレスティ



新鋳造丁場外観

【新鋳造工場】 2018年3月竣工

面積: 5,103㎡

【新加工工場】 2018年9月竣工 面積: 12,856㎡

【事務所棟】 2018年10月竣工

面積: 3,509㎡

アーレスティ山形



增改築部分赤枠表示

【第1加工棟】 2019年1月竣工 面積: 1,250㎡

【溶解棟】 2019年9月竣工予定

面積: 650㎡

アーレスティプリテック(豊橋工場)



【第4加工工場】 2019年9月竣工予定 面積: 4,575㎡



人材育成

- 教育体系や教科書の見直しが完了し、グローバルで同一水準の教育・訓練の実行に移行
- □ 国内外同一水準での現場管理監督者教育が進捗

グローバルRSTラーニングの【定着】

ものづくりを究める人材育成

教育体系を整備運用して人材育成を強化 社員のモチベーション向上 社員の知識、技能のレベルアップ

(1618の成果)

- ◆ グローバル統一カリキュラムの展開 国内だけでなく、海外6拠点でも開講 (2018年度受講者数 2,008人)
- ◆ 国内外で現場管理監督者育成教育を確立

現場管理監督者の教育人数の推移







1618中期経営計画 経営目標値

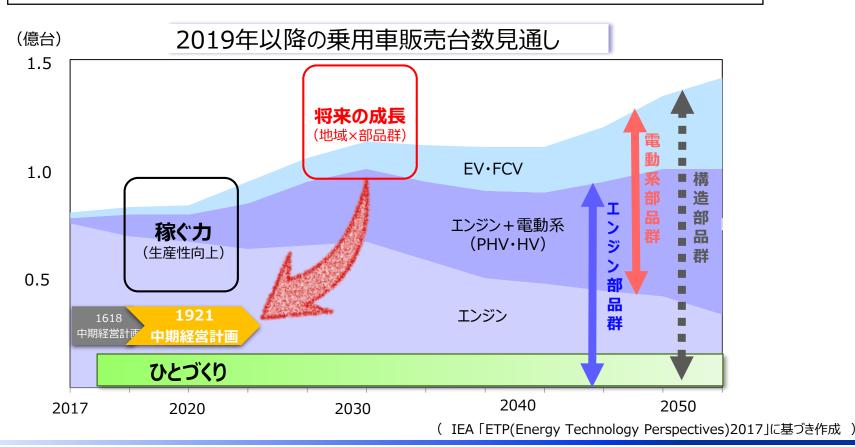
- □ 中期経営計画の売上高目標は為替影響除けば1,513億円と到達
- 収益面では、製品価格の値引きや人件費・燃料費などの上昇を補えるような収益改善が不足。特にアメリカ工場の生産性改善に時間を要し、減損損失の影響等もあり未達

	2015年度 (実績)	2016年度 (実績)	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	1618中期 経営計画
売上高	1,444	1,366	1,451	1,454	1,500
営業利益率	3.7%	5.1%	3.3%	2.2%	5.5%
総資産利益率 (ROA)	1.4%	3.4%	2.5%	0.3%	3.0%
自己資本利益率(ROE)	3.3%	7.6%	5.4%	0.7%	7.0%

- 2018年度 決算概況
- 1618 三ヵ年計画の振り返り
- 1921 三ヵ年計画の概要
- 2019年度 通期業績予想

1921 中期経営計画の基本方針

- 将来の自動車市場を見据えた事業戦略
- 生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ
- 企業の成長を支えるひとづくり



将来の自動車市場を見据えた事業戦略

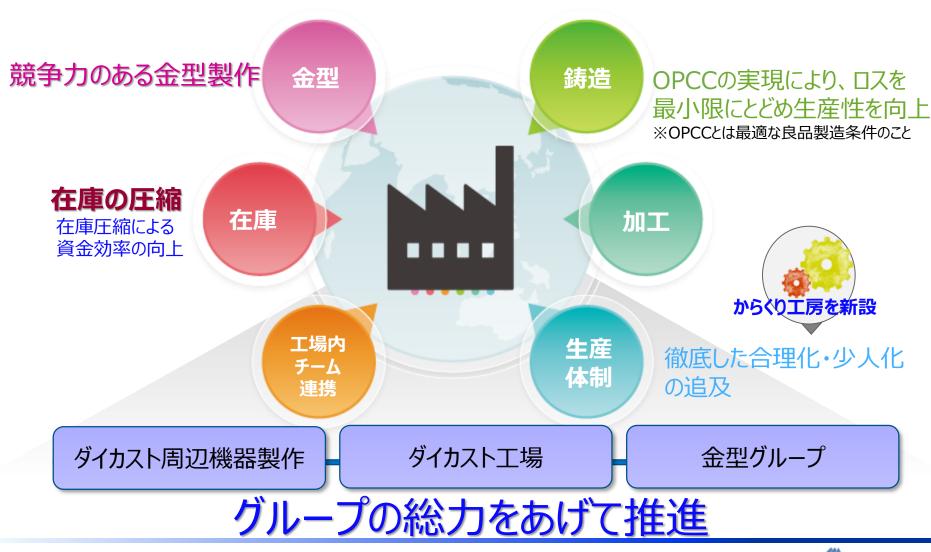
- ·2025年の売り上げ目標2000億円+α達成
- ・顧客からの高評価獲得

将来の 事業環境を 見据えた部品群 の受注活動 ものづくりの 基本を守り、 自工程保証を向 上させて顧客満 足度を上げる

新たに求め られるニーズを 捉え実現する 技術の開発

全拠点での 同一品質・ 生産性の実現

生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ



企業の成長を支えるひとづくり

- ・従業員が安全に心身ともに健康で働きやすい職場の実現
- ・従業員が常に生きいきと活動でき、働きがいを感じられる風土づくり

安全で働きやすい 職場の実現に向けた 取り組み

作業負荷の低い職場の実現

快適な作業環境の実現

事故・災害の撲滅

戦略的に人材を育成

2018 2019 2021 2025 1921 中期経営計画 人材ロードマップ • 外部環境変化 現状の 戦略的採用・育成 2025年を見据え必要な • 事業規模拡大 人材ポートフォリオ 人材ポートフォリオ ビジネスモデル変化 通常の採用 昇格・教育

1921中期経営計画 目標値

	2018年度 (実績)	2019年度 (計画)	1
売上高	1,454	1,340	
営業利益率	2.2%	2.0%	
総資産利益率 (ROA)	0.3%	_	
自己資本利益率(ROE)	0.7%	_	

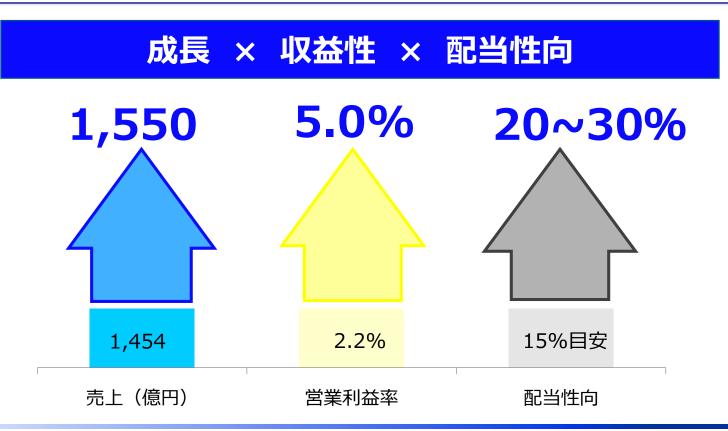
	1921中期経営計画 (目標値)
	1,550
•	5.0%
	3.5%
	8.0%

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化



適正な利益還元の実施

- > 3年間で18年度比約10%の売上増と利益率5.0%を目指し、適切な利益還元を行います
- ▶ 収益性の強化により、健全な財務体質を維持しながら経営の優位性を確保すべく努めます
- ▶ 従来15%を目安としていた配当性向を上げ、株主還元の拡充を目指します



- 2018年度 決算概況
- 1618 三ヵ年計画の振り返り
- 1921 三ヵ年計画の概要
- 2019年度 通期業績予想

2019年度 通期計画

(単位:百万円)

	2018年度(利益率)		2019年 計画(利益		前期比増減	
売上高	145,428	_	134,000	_	△11,428	△7.9%
営業利益	3,228	(2.2%)	2,700	(2.0%)	△528	△16.4%
経常利益	2,905	(1.9%)	2,500	(1.8%)	△405	△13.9%
当期純利益	421	(0.2%)	1,700	(1.2%)	1,278	303.7%
EPS (円)	16.26		65.60			

売上高増減要因(単位:百万円)

コストタ゛ウン

製品ミックス

2018

地金市況 販売量減

影響

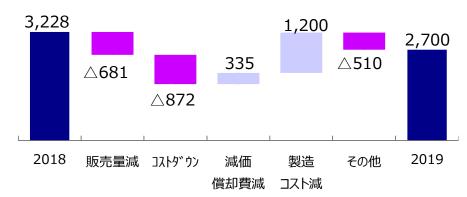
実績の為替レート (通期平均): USD 米110.72円 メキシコ110.58円 人民元 16.69円 ルピー 1.59円

その他

計画の前提レート : USD 107.0円 人民元 16.0円 ルピー 1.50円

為替影響

営業利益増減要因(単位:百万円)



2019

設備投資・減価償却の動向

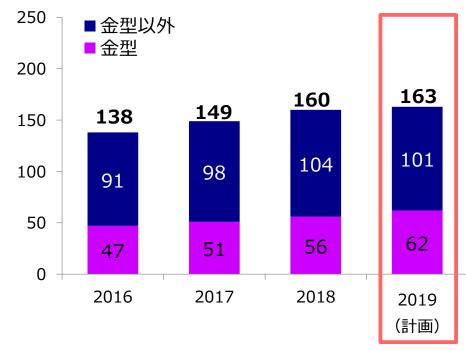
2019年度

- ▶ 投資内容 ダイカスト:能力維持、合理化投資を中心 加工:海外拠点の能力拡充投資を中心
- 設備投資金額:合計284億円(一般設備投資 219億円、金型投資 65億円)

設備投資額の推移(単位:億円)

当初計画 ■金型以外 (計画238) ■金型 (計画)

減価償却費の推移(単位:億円)



配当

- > 2018年度は期初計画の下方修正を行い、配当についても期初計画から中間配当は2円、期末 配当も2円減配し年間22円の配当を実施
- ▶ 2019年度は、年間22円の配当を予想
- ▶ 中長期的な企業成長に必要な経営基盤や配当性向等を勘案し適正な利益還元を推進
- ▶ 自己株式の取得を実施(総数:580,000株 総額:300百万円)

1株当たり配当金	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 予想
(年間)	20	26	22	22
中間配当	8	12	10	10
期末配当	12	14	12	12
1株当たり純損益(連結)	178.77	133.40	16.26	65.60
配当性向(連結)	11.2	19.5	135.3	33.5

■ APPENDIXES (セグメント別 2019年度 通期業績予想)

2019年度 ダイカスト事業

(単位:百万円)

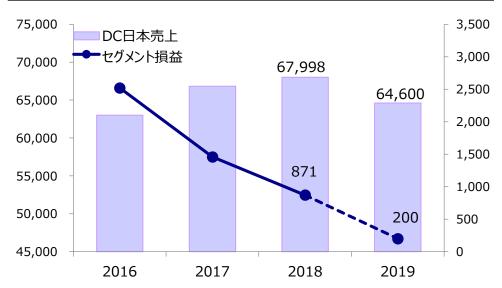
		2018年度(利益率)		2019年 計画(利益		前期比増減	
	売上高	67,998	_	64,600	_	△3,398	△5.0%
日本	セグメント損益	871	(1.2%)	200	(0.3%)	△671	△77.1%
北米	売上高	39,801	_	34,000	_	△5,801	△14.6%
心不	セグメント損益	123	(0.3%)	1,000	(2.9%)	877	713.0%
アジア	売上高	29,971	_	28,500	_	△1,471	△5.0%
ーアンア	セグメント損益	1,841	(6.1%)	1,200	(4.2%)	△641	△34.9%

✓ ダイカストセグメントの海外売上比率

2018年度:50.6% ⇒ 2019年度:49.2%

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高/セグメント損益の推移(単位:百万円)



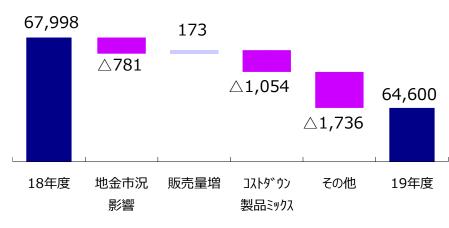
売上:33.9億円減(前期比5.0%減)

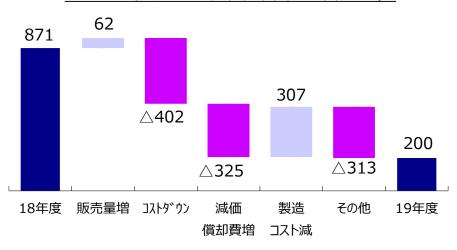
- > 受注量は微増
- ▶ 地金市況は前期実績より下降の予測

セグメント損益:6.7億円減(前期比77.1%減)

- コストダウン、減価償却費は増加
- ▶ 栃木工場等の生産性改善等によりコスト削減

<u>売上高増減要因(単位:百万円)</u>

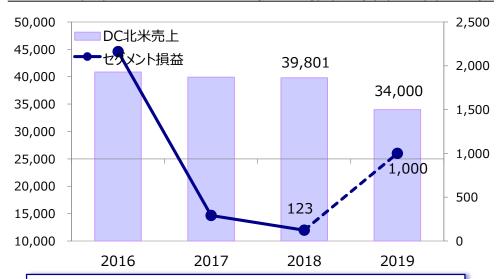






ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移(単位:百万円)



売上:58.0億円減(前期比14.6%減)

- ▶ 米国、メキシコ共に受注量が減少
- ▶ 地金市況は前期実績より下降の予測
- > 会計基準改定の影響による減少

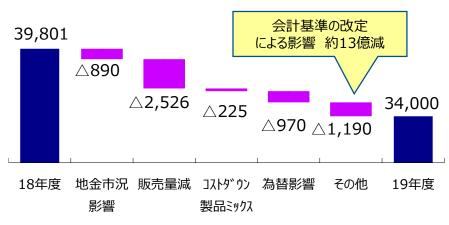
セグメント損益:8.7億円増(前期713.0%増)

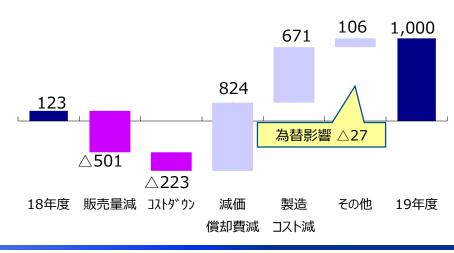
- 売上高の大幅な減少
- ▶ 生産性改善等によるコスト削減により増益

決算期:アメリカ3月期、メキシコ12月期

レート(18通期→19計画)アメリカ 110.72→107 メキシコ 110.58→107

<u>売上高増減要因(単位:百万円)</u>

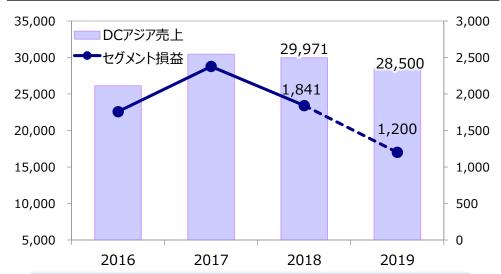






ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移(単位:百万円)



売上:14.7億円減(前期比5.0%減)

- ▶ 中国、インド共に受注量が増加
- 地金市況と為替影響は減収要因

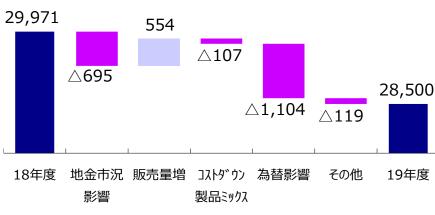
セグメント損益: 6.4億円減(前期比34.9%減)

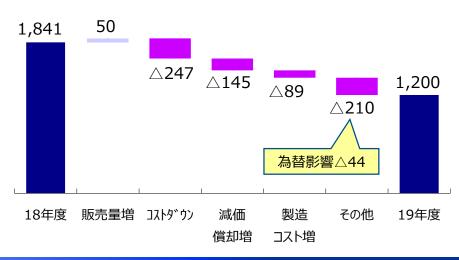
- 中国、インドの売上高により微増
- コストダウン、減価償却費増の影響等により減益

決算期:中国12月期、インド3月期

レート(18通期→19計画) 人民元 16.69→16.0 インドルピー 1.59→1.50

<u>売上高増減要因(単位:百万円)</u>







2019年度 アルミニウム事業および完成品事業

(単位:百万円)

		2018年度(利益率)		2019年度 計画(利益率)		前期比増減	
アルミ	売上高	4,679	_	4,400	_	△279	△6.0%
ニウム	セグメント損益	112	(2.3%)	200	(4.5%)	88	78.5%
	売上高	2,976	_	2,500	-	△476	△16.0%
完成品	セグメント損益	314	(10.5%)	100	(4.0%)	△214	△68.2%

- ▶ アルミニウム事業については地金市況の下降の影響により増益予想
- ▶ 完成品事業については受注減少等により減益予想



視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】 株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: https://www.ahresty.co.jp

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。